

上峰町文化財調査報告書第50集

上峰町内遺跡確認調査XII

上峰町内における開発行為に伴う
埋蔵文化財確認調査報告書
—令和元年度—

2021年3月

上峰町教育委員会



上峰町内遺跡確認調査XII

上峰町内における開発行為に伴う
埋蔵文化財確認調査報告書
—令和元年度—



2021年3月

上峰町教育委員会

序

從来、上峰町は「遺跡の宝庫」と言わされてきました。北部の脊振山系、その南麓から派生し南北に延びる洪積世丘陵と谷、さらに有明海へと続く沖積平野と変化に富んだ地形を含む町域には、いたるところに先人たちの暮らしの足跡が刻み込まれています。教育委員会では、こうした人々の暮らしの足跡、歴史的資産を保存活用し、将来へ継承していくために、開発と文化財の保護との調整に努めてまいりました。

近世以来の純農村集落の面影を色濃く残してきた上峰町は、昭和40年代後半から「農工併進のまちづくり」を理念に掲げ、工業団地の整備による大規模工場の誘致、農業基盤整備事業の実施とまちづくりを進めてまいりました。町の中央を国道34号線が東西に横断し、ここから、福岡県久留米市へは県道が通るという恵まれた交通環境に位置しており、佐賀市や鳥栖市、久留米市へも最適な通勤圏にあるところから、近年人口も着実に伸び、ベッドタウンとして発展してまいりました。これに伴い、各種商業施設、事業所等の町内進出も相次ぎ、上峰町は平成元年の町制施行以来、この30余年間で近代的な田園都市へと大きく変貌を遂げました。

本書は、上峰町内の埋蔵文化財の保護と開発との調整を図るために上峰町が平成元年度より国庫補助事業の適用を受け実施してまいりました町内遺跡確認調査の報告書であります。この開発に伴う町内遺跡確認調査の実施によって多くの遺跡が破壊、消滅をまぬかれ保護されました。この報告書を学術的な資料として、また今後の埋蔵文化財保護と開発との調整を図るための資料として役立てていただければ幸いです。

なお、この町内遺跡確認調査にあたって、ご指導、ご協力をいただきました佐賀県教育委員会、開発事業主体者をはじめ、関係各位に対し深く感謝申し上げます。

令和3年3月

上峰町教育委員会

教育長 野口敏雄

例　　言

1. 本書は、平成元年度から国庫補助事業として、上峰町内で実施してきた町内遺跡確認調査のうち令和元年度に実施した町内遺跡確認調査の報告書である。
2. 本書は、令和2年度の国庫補助事業により、上峰町教育委員会が作成、刊行したものである。
3. 町内遺跡確認調査は、上峰町教育委員会が実施した。
4. 現場での発掘作業は、重機により表土剥ぎを行い、調査員の指示により発掘作業員が精査し、遺構・遺物の有無を確認した。
5. 現場での図面、写真による記録作業は、調査員が行った。
6. 遺構などの現場における写真撮影及び出土遺物の写真撮影は、調査員が行った。
7. 調査後の出土遺物、記録類の簡単な整理作業は、当該年度にそれぞれ実施した。
8. 本書中の挿図・写真図版などの作成作業は、調査員の指示により、整理作業員が行った。
9. 本書の執筆・編集は、原田大介・伊達有彩・松浦　智が行った。
10. 本報告書に係る町内遺跡確認調査で出土した全ての遺物及び現場で作成した図面・写真・その他の記録類は、上峰町教育委員会で保管している。

凡　　例

1. 「確認調査」・「試掘調査」の用語については、遺跡の範囲内外を基準に「確認調査」・「試掘調査」と区分して取り扱われているが、本書では「確認調査」と統一し表記している。
2. 確認調査番号については、年度ごとに令和をあらわす「R」、年度を表す「数字」、ハイフンの後に一連の番号を付して、調査番号としている。本書中、調査位置図・確認調査一覧表・報文中の調査番号は一致する。
例) 令和元年度に3番目に実施した○○遺跡確認調査 R01-3 ○○遺跡
3. 「調査後の指置」については、本文中の標記は最終結果を記載したが、各年度の一覧表中の標記は当該年度末時点での状況を記載している。
4. 本文・挿図中の方位については、全て座標北を基準としている。
5. 先の市町村合併により、上峰町周辺の町村も合併が進み町村名が変更になっている。本書では、必要に応じて現在の市町名のあとに（ ）で旧市町村名も併記している。

調査組織

令和元年度

調査主体 上峰町教育委員会

調査事務局 総括野口敏雄 上峰町教育委員会 教育長

事務主任 中島洋 # 文化課長

経費執行 原田大介 # 文化課主査

伊達有彩 # 文化課文化係

松本周作 #

調査組織 調査員 原田大介 # 文化課主査

伊達有彩 # 文化課文化係

松本周作 # #

調査指導 佐賀県地域交流部 文化・スポーツ交流局 文化課 文化財保護室

発掘作業参加者

令和元年度

石橋 泰隆・北野 薫・古賀 碧夫・生島 みどり・白土 香・杉谷 嘉泰・田中 一馬・豊福 政子・

宮崎 正秋・牟田 康孝・山田 富士夫

江崎 愛子・島 美保子

整理作業参加者

江崎 愛子・島 美保子（令和2年度 整理作業員）

目 次

序

例言・凡例

調査組織・発掘作業参加者・整理作業参加者

I. 上峰町の位置と環境	1
1. 上峰町の位置	1
2. 歴史的環境	1
II. 調査の概要	6
1. 調査に至る経緯	6
2. 調査の方法	6
III. 令和元年度の確認調査	9
R01-1 坊所一本谷遺跡(1)	13
R01-2 栗山遺跡	14
R01-3 周知外上坊所地区	14
R01-4 三上遺跡(1)	15
R01-5 坊所五本谷遺跡	15
R01-6 三上遺跡(2)	16
R01-7 一本谷遺跡	18
R01-8 五本谷遺跡	18
R01-9 三上遺跡(3)	19
R01-10 三上遺跡(4)	20
R01-11 周知外中村地区	21
R01-12 三上遺跡(5)	21
R01-13 榛寺遺跡	22
R01-14 杉寺遺跡(1)	22
R01-15 坊所三本松遺跡	23
R01-16 米多城跡(1)	23
R01-17 三上遺跡(6)	24
R01-18 杉寺遺跡(2)	25
R01-19 杉寺遺跡(3)	26
R01-20 三上遺跡(7)	27
R01-21 米多城跡(2)	27
R01-22 坊所二本谷遺跡	28
R01-23 坊所一本谷遺跡(2)	28
R01-24 四本谷遺跡	29

挿図目次

Fig. 1 上峰町内主要遺跡及び周辺遺跡 (1/50,000)	2
2 上峰町遺跡地図 (1/50,000)	7
3 令和元年度 確認調査地位置図 (1/50,000)	12
4 R01-1 坊所一本谷遺跡(1) (1/5,000)	13
5 R01-1 トレンチ設定図 (1/1,000)	13
6 R01-1 トレンチ略図 (1/200)	13
7 R01-2 栗山遺跡 (1/5,000)	14
8 R01-3 周知外上坊所地区 (1/5,000)	14
9 R01-4 三上遺跡(1) (1/5,000)	15
10 R01-5 坊所五本谷遺跡 (1/5,000)	15
11 R01-6 三上遺跡(2) (1/5,000)	16
12 R01-6 トレンチ設定図 (1/1,000)	16
13 R01-6 トレンチ略図 (1/200)	16
14 R01-7 一本谷遺跡 (1/5,000)	18
15 R01-8 五本谷遺跡 (1/5,000)	18
16 R01-9 三上遺跡(3) (1/5,000)	19
17 R01-9 トレンチ設定図 (1/1,000)	19
18 R01-9 トレンチ略図 (1/200)	19
19 R01-10 三上遺跡(4) (1/5,000)	20
20 R01-10 トレンチ設定図 (1/1,000)	20
21 R01-10 トレンチ略図 (1/200)	20
22 R01-11 周知外中村地区 (1/5,000)	21
23 R01-12 三上遺跡(5) (1/5,000)	21
24 R01-13 楠寺遺跡 (1/5,000)	22
25 R01-14 杉寺遺跡(1) (1/5,000)	22
26 R01-15 坊所三本松遺跡 (1/5,000)	23
27 R01-16 米多城跡(1) (1/5,000)	23
28 R01-17 三上遺跡(6) (1/5,000)	24
29 R01-17 トレンチ設定図 (1/1,000)	24
30 R01-17 トレンチ略図 (1/200)	24
31 R01-18 杉寺遺跡(2) (1/5,000)	25
32 R01-18 トレンチ設定図 (1/1,000)	25
33 R01-18 トレンチ略図 (1/200)	25
34 R01-19 杉寺遺跡(3) (1/5,000)	26
35 R01-19 トレンチ設定図 (1/1,000)	26
36 R01-19 トレンチ略図 (1/200)	26
37 R01-20 三上遺跡(7) (1/5,000)	27

38	R01-21	米多城跡(2) (1/5,000)	27
39	R01-22	坊所二本谷遺跡 (1/5,000)	28
40	R01-23	坊所一本谷遺跡(2) (1/5,000)	28
41	R01-24	四本谷遺跡 (1/5,000)	29

表 目 次

Tab. 1	令和元年度 町内遺跡確認調査一覧表	10・11
	報告書抄録		

図 版 目 次

PL. 1	R01-1	坊所一本谷遺跡(1) №1 試掘溝（東から）	13
2	R01-1	坊所一本谷遺跡(1) №1 試掘溝遺構検出状況	13
3	R01-2	栗山遺跡 調査地全景	14
4	R01-3	周知外上坊所地区 調査地全景	14
5	R01-4	三上遺跡(1) №1 試掘溝断面	15
6	R01-5	坊所五本谷遺跡 №1 試掘溝（南から）	15
7	R01-6	三上遺跡(2) 調査地全景	17
8	R01-6	三上遺跡(2) №1 試掘溝（北から）	17
9	R01-6	三上遺跡(2) №1 試掘溝遺構検出状況	17
10	R01-6	三上遺跡(2) №2 試掘溝（北から）	17
11	R01-6	三上遺跡(2) №3 試掘溝（南から）	17
12	R01-6	三上遺跡(2) №4 試掘溝（南から）	17
13	R01-6	三上遺跡(2) №4 試掘溝遺構検出状況	17
14	R01-6	三上遺跡(2) №4 試掘溝断面	17
15	R01-7	一本谷遺跡 調査地全景	18
16	R01-8	五本谷遺跡 調査地全景	18
17	R01-9	三上遺跡(3) №2 試掘溝（北から）	19
18	R01-9	三上遺跡(3) №4 試掘溝遺構検出状況	19
19	R01-10	三上遺跡(4) №1 試掘溝（北から）	20
20	R01-10	三上遺跡(4) №3 試掘溝遺構検出状況	20
21	R01-11	周知外中村地区 調査地全景	21
22	R01-12	三上遺跡(5) 調査地全景	21
23	R01-13	裡寺遺跡 調査地全景	22
24	R01-14	杉寺遺跡(1) 調査地全景	22
25	R01-15	坊所三本松遺跡 調査地全景	23
26	R01-16	米多城跡(1) 調査地全景	23

27	R01-17	三上遺跡(6)	調査地全景	24
28	R01-17	三上遺跡(6)	No.1 試掘構（東から）	24
29	R01-18	杉寺遺跡(2)	調査地全景	25
30	R01-18	杉寺遺跡(2)	No.2 試掘構（北から）	25
31	R01-19	杉寺遺跡(3)	調査地全景	26
32	R01-19	杉寺遺跡(3)	No.2 試掘構遺構検出状況	26
33	R01-20	三上遺跡(7)	調査地全景	27
34	R01-21	米多城跡(2)	調査地全景	27
35	R01-22	坊所二本谷遺跡	調査地全景	28
36	R01-23	坊所一本谷遺跡(2)	調査地全景	28
37	R01-24	四本谷遺跡	調査地全景	29

I. 上峰町の位置と環境

1. 上峰町の位置 (Fig. 1)

佐賀県三養基郡上峰町は、佐賀県東部の穀倉地帯である佐賀平野のほぼ中央、三養基郡の西端に位置しており、東部は同郡みやき町（旧中原町・旧北茂安町）と、南部は同郡みやき町（旧三根町）と、西部は神埼郡吉野ヶ里町（旧東脊振村・旧三田川町）と境を接している。また、この神埼郡との境界は、古代以来の三根郡との郡界を踏襲しており、現在も町のほぼ中央を東西に横断する国道34号線付近の旧三田川町と境を接する地域は郡境地区と呼称されている。

鳥栖市から佐賀市大和町（旧佐賀郡大和町）に至る佐賀県東部には、北部に背振山地、その南麓に発達する更新世丘陵、さらに南部には有明海へと続く沖積平野が展開するという、変化に富んだ地形が発達している。なかでも、山麓部から沖積平野部へ移行する部分に発達する更新世丘陵は、山麓部に源を発し有明海へと南流する大小の河川によって浸食され北から南へ延びる舌状を呈した段丘を数多く形成している。そして、これらの段丘は古くから人々の生活の場として利用され、段丘上には数多くの遺跡が分布し、遺跡数、内容ともに県内でも有数の地域となっている。

そのようななか、南北に細長い町域をもつ上峰町においても、北部に山麓部、中央部に更新世丘陵部、南部に沖積平野部と、この佐賀県東部の特徴的な地形が展開しており、とくに中央部に発達する更新世丘陵地帯を中心に遺跡の分布が知られ、古くから「遺跡の宝庫」と呼ばれてきた。

2. 歴史的環境 (Fig. 1)

上峰町を中心に佐賀県東部の遺跡を概観すると、前述のとおり、山麓部から更新世丘陵部におよぶ一帯が古くから人々の生活の舞台となっており、山麓部及び各段丘上には、現在、遺跡の存在が知られ、県内においても特に弥生時代遺跡を中心に遺跡の分布密度が高い地域となっている。沖積地を望む丘陵部のほとんどが、各時代の集落あるいは墓域として占有され、とりわけ、弥生時代以降の遺跡を縄文時代以前の遺跡と比較すると、量的にも、質的にも爆発的に増加、充実する。銅鐸の鉄型を出土した鳥栖市安永田遺跡¹⁾、約400基の壺棺墓が検出されたみやき町（旧中原町）姫方遺跡²⁾、埋納された12本の銅矛を出土したみやき町（旧北茂安町）検見谷遺跡³⁾、鹿沼墓から舶載鏡を出土した吉野ヶ里町（旧東脊振村）三津永田遺跡⁴⁾、近年の工業団地建設に先立つ調査で貴重な遺構、遺物が検出された神埼市（旧神埼町）・吉野ヶ里町（旧三田川町・旧東脊振村）に跨る吉野ヶ里遺跡⁵⁾など多くの著名な集落遺跡、墳墓群が知られ弥生時代の「クニ」あるいは「ムラ」単位の集団の存在が想定されるに至っている。このようななか、南北約12km、東西約3kmと南北に細長い町域においても同様に、町の北部から中央部を占める更新世段丘上に弥生時代を中心とする各時代の遺跡が分布している。

先土器時代の遺跡についてみると、各段丘で層序が異なる本地域においては本格的な調査がなされていないのが現状で、断片的な遺物の出土、採取にとどまっている。町内では、平成4年度の県営農業基盤整備事業に伴う八藤遺跡の調査において網石刃1点とこの時期のものと考えられる石器類が少量出土しているが、これが発掘調査における主な出土例である⁶⁾。周辺地域では、吉野ヶ里町（旧三田川町）との境界に位置する二塚山丘陵の吉野ヶ里町（旧三田川町）側からナイフ形石器の採取例が報告されている⁷⁾。また、平成5年度の県営農業基盤整備事業に伴う八藤遺跡下層における阿蘇4火碎流跡と埋没林に係る調査において、先土器時代の年代示標となっている姶良-Tn火山灰（AT）の含有ピークが、通常の丘陵上の埋蔵文化財調査において遺構検出面としている「地山」



上峰町	12 横穴木谷遺跡	24 坂所城跡	47 西寒水遺跡	50 中原町	53 鹿伏古墳群	56 古瀬路穴本松遺跡
1 唐の龍古墳群	13 桜上野跡	25 犀今瀬跡	50 山田藏春館出土地	51 北光空町	57 伊勢原前方後円墳	58 丹波篠山遺跡
2 桜西山城跡	14 八瀬古跡	26 利今瀬跡	52 山田古墳群	48 宝満谷遺跡	59 丹野遺跡	60 丹波篠山遺跡
3 二本柳古墳群	15 二段山遺跡	27 坂所二本松遺跡	53 大坂古墳	49 宝満宮前方後円墳	61 田家背脂村	62 三井町
4 織西山南麓古墳群	16 玉木村遺跡	28 坂所三本松遺跡	59 八幡井遺跡	50 大保古墳	63 西石野古墳群	64 三井田遺跡
5 琴三本松遺跡	17 桜石畠跡	29 琴の坂庚子跡	40 斎高遺跡	51 東花御側出土遺跡	65 戰國・谷造跡	66 戰國・谷造跡
6 琴野原古墳群	18 桜石畠遺跡	30 西前中田遺跡	41 稲方遺跡	52 三井町	67 丹波篠山遺跡	68 丹波篠山遺跡
7 父母古墳群	19 切通古跡	31 米多姑跡	42 稲方新力屋円墳	53 木分瓦窯	69 西石野古墳群	70 丹波篠山遺跡
8 田三木桜遺跡	20 一本谷遺跡	32 稲作田植跡	43 道方町遺跡	54 三面川町	71 丹波篠山遺跡	72 丹波篠山遺跡
9 青柳古墳群	21 方所一木谷遺跡	33 加茂庄產坐落跡	44 ドーン落遺跡	55 吉野ナ里丘陵遺跡群	73 丹波篠山遺跡	74 丹波篠山遺跡
10 新立古墳群	22 上のひやう塚古墳	34 江渡城跡	45 可南遺跡	56 下中村遺跡	75 幸平裏寺跡	76 横田遺跡
11 蘭原原古墳群	23 日連大古墳群	35 一ノ橋櫛原聚落跡	46 天神遺跡	57 下藤貝塚		

Fig. 1 上峰町内主要遺跡及び周辺遺跡 (1/50,000)

の表層を構成する黄褐色風積土層の最上部付近、アカホヤ含有層のやや下部にて検出されている¹¹⁾。

鐵文時代になると、みやき町（旧中原町）香田遺跡¹²⁾や吉野ヶ里町（旧東脊振村）戦場ヶ谷遺跡¹³⁾などが出現する。町内においても、これまでも町北部の丘陵部から土器や石器が、耕作や先覚者の遺跡の表面観察などによって断片的に出土、採取されていたが、近年の上峰北部農業基盤整備事業に伴う発掘調査の結果、平成元年度の船石遺跡11区¹⁴⁾、平成2年度から5年度にわたり実施した八幡丘陵の調査¹⁵⁾において、遺構や遺物がまとまって検出されており、今後の調査例の増加が期待されている。

弥生時代になると、遺跡の数や規模、その内容が飛躍的に増加、充実することは先に触れたが、早くから『魏志倭人伝』の「齊奴國」の所在地を佐賀平野東部、なかでも三義基都西部の旧三根郡にあてる論考が行われてきたことは周知のことである。旧三根郡に所属する上峰町においても、丘陵部のほとんどにこの時期の遺跡が展開している。しかし、町の南部や中央部の米多地区、坊所地区的丘陵部は、中世以降集落として発達し、早くから宅地化が進み、本格的な発掘調査の例に乏しく、わずかに再開発に伴い部分的に小規模の発掘調査が行われているに過ぎず、遺跡の詳細について把握できていないのが現状である。これに対して、町北部の大字堤地区では、近年の工業団地建設や農業基盤整備事業など大型開発に伴い広範囲かつ大規模な発掘調査が実施され、各遺跡から当時の社会の様子を知るうえで貴重な資料が得られている。町内の代表的な遺跡としては、甕棺墓から細形銅劍や貝釧を出土した切通遺跡¹⁶⁾、吉野ヶ里町（旧東脊振村・旧三田川町）に跨る、佐賀県東部中核工業団地の建設に伴い甕棺墓、土壙墓など約300基が調査され、船載鏡、小型散製鏡をはじめとする貴重な副葬品を出土した二塚山遺跡¹⁷⁾、佐賀県住宅供給公社の宅地造成に伴う調査で一集団の集落部分の全容が明らかになった一本谷遺跡¹⁸⁾、地区運動公園整備に伴う調査で5世紀代の古墳とともに支石墓はじめ多数の甕棺墓が検出された船石遺跡¹⁹⁾などが知られている。また、近年の上峰北部農業基盤整備事業に伴う調査においても、船石遺跡¹⁷⁾、船石南遺跡¹⁸⁾、八幡遺跡¹⁹⁾から住居址や甕棺墓などが多数検出されている。

古墳時代になると、この地域にも首長墓が出現する。初頭の時期にはみやき町（旧中原町）姫方原遺跡²⁰⁾、上峰町五本谷遺跡²¹⁾などにおいて方形周溝墓が営まれ、やがて中期にかけて鳥栖市から佐賀市大和町に至る山麓や丘陵部に大型の前方後円墳が出現する。鳥栖市劍塚古墳²²⁾、みやき町（旧中原町）姫方古墳²³⁾、上峰町西南部から吉野ヶ里町（旧三田川町）に跨る目達原古墳群²⁴⁾、神埼市（旧神崎町）伊勢塚古墳²⁵⁾、佐賀市桃子塚古墳²⁶⁾、佐賀市大和町船塚古墳²⁷⁾など佐賀県東部の代表的な古墳が築かれるようになる。さらに後期になると、現在長崎自動車道や県道佐賀川久保・鳥栖線が通る山麓部から丘陵部に跨る一帯に小円墳を中心とした古墳が多数築かれ、それぞれが山麓部の尾根や谷あるいは丘陵を単位として後期古墳群を形成している。

後の『肥前風土記』にみえる三根郡米多郷に属する当時の上峰町一帯は、『古事記』、『国造本紀』などの記事によれば応神天皇の曾孫にあたる「都紀女加」なる人物が初代の米多国造として中央より下向した地域に比定され、その中心は、町南西部の米多地区から吉野ヶ里町（旧三田川町）東部の目達原一帯にあったと推定されている。町内の主要な古墳としては、都紀女加を始祖とする米多国造一族の墳墓として、5世紀代後半に形成されたと考えられる上のびゅう塚（現在、陵墓「都紀女加王墓」宮内庁管轄）はじめ無名塚、大塚、古稀荷塚、稚荷塚などの前方後円墳はかかるなる目達原古墳群²⁸⁾が知られていたが、戦前の陸軍飛行場建設の際に、唯一上のびゅう塚を残し他の古墳は簡単な発掘調査の後破壊されている。また町の北部の古墳としては、同じく5世紀代の古墳で、蛇行状鉄劍、蛇行状銅矛を出土した船石天神宮境内の船石古墳1～3号墳²⁹⁾が知られている。古墳時代後期の古墳としては、町北部の鎮西山の周辺山麓部から高位段丘上にかけて、小円墳を主体とする谷渡、青柳、新立、奥の院、鎮西山南麓、屋形原などの古墳群が点在している。

一方、この時期の聚落は、吉野ヶ里町（旧三田川町）下中村遺跡³⁰⁾、吉野ヶ里町（旧東脊振村）下石動遺跡³¹⁾などが知られているが、弥生時代聚落に比べ、遺跡そのものの数も少なく、調査例も少なくいまだに実態が明らかになっていないのが現状である。町内の遺跡をみても、当時の政治的中心であったと考えられる町南部の米多地区周辺における本格的な発掘調査の例がなく、今後の大きな課題といえる。

奈良・平安時代遺跡としては、吉野ヶ里町（旧三田川町）下中村遺跡、吉野ヶ里町（旧東脊振村）辛上庭寺跡³²⁾、靈仙寺跡³³⁾などが著名であるが、この時期の遺跡についてもまとまった調査例が少なく、実態はあまり解明されていない。当時の遺構として大規模なものは、佐賀平野に敷かれた条里制の遺構が上げられ、早くから地名などから条里の復元が試みられ、現在ではほとんどの条里が復元されている。また、大宰府から肥前国府へ通じる官道の調査も進み、近年部分的な発掘調査が行われている。

町内では堤土星跡³⁴⁾や塔の冢庵寺跡³⁵⁾などが奈良時代の遺跡として戦前から注目されている。町北部の堤地区の八藤丘陵と二塚山丘陵の間の谷底平野を遮断する形で築かれた堤土星跡は、版築工法により築かれた福岡県の水城に似た施設=「小水城」で、その築造目的が、大宰府の防衛施設であるとする説、灌漑用水確保のための溜池の堤防であるとする説など議論がなされてきたが、平成2年度からの土星の東方に接する八藤丘陵の調査において、土星東端から一直線に八藤丘陵を東方へ横断する道路側溝状の遺構が検出され³⁶⁾、その性格付けにあらたに古代道の存在が想定されることとなった。また町南西部を占める目連原丘陵の南端部に位置する塔の冢庵寺跡は、百濟系単軒丸瓦が発見され、戦前までは基壇、礎石の存在が知られていた奈良時代中期の寺院址で、目連原古墳群を営んだ米多国造一族の流れをくむ三根郡の郡司層が建立したものと推定されている。また、町内における奈良・平安時代の聚落は、農業基盤整備事業に伴う調査や近年の大規模小売店舗建設に先立つ坊所一本谷遺跡³⁷⁾の調査などでまとまった調査がなされたのみで、今後の調査例の増加が期待される。

中世になると、北部の山麓部の小峰に山城が築かれ、沖積平野部には環濠を伴う平城や聚落が出現する。町内の中世城館址としては、北部の新西山城跡、上峰町中央部の平野を臨む丘陵部に坊所城跡、町南部の平野部には米多城跡、前牟田城跡、江迎城跡、一の橋聚落、加茂聚落などが知られていた³⁸⁾。しかし、昭和40年代後半からの園場整備事業によって、これら平野部の遺構は、原状がほとんど失われてしまった。そのようななかで、町の親水公園として整備された江迎城跡では13世紀後半代の龍泉窯系の青磁碗が建物跡とともに出土し、また、坊所城跡では16世紀後半代の青花がそれぞれ出土している³⁹⁾。

以上、上峰町を中心に佐賀県東部の遺跡を概観したが、まさにこの地域は遺跡の密度、その内容ともに高く、遺跡の宝庫と呼ぶにふさわしい地域といえる。

註

- 1) 藤瀬裕博・石橋新次『柏原遺跡群範囲確認調査第8年次概要報告書』鳥栖市文化財調査報告書第30集 鳥栖市教育委員会 1980
- 2) 木下巧・天本洋一『姫方遺跡』佐賀県文化財調査報告書第30集 佐賀県教育委員会 1974
- 3) 七田忠昭『猿谷遺跡』北茂安町文化財調査報告書第2集 北茂安町教育委員会 1986
- 4) 金闇丈夫・坪井清足・金開那『佐賀県三津永田遺跡』『日本農耕文化の生成』日本考古学協会 1961
- 5) 七田忠昭他『吉野ヶ里』佐賀県文化財調査報告書第113集 佐賀県教育委員会 1992
- 6) 原田大介『八藤遺跡Ⅲ』上峰町文化財調査報告書第16集 上峰町教育委員会 1999
- 7) 七田忠志『原始』『上峰村史』上峰村 1979
- 8) 下山正一・西田民雄『Ⅱ. 佐賀県上峰町周辺の地形と地質』『佐賀平野の阿蘇4火砕流と埋没林』上峰町文化財調査報告書第11集 上峰町教育委員会 1994
- 9) 高瀬哲郎・堤安信・久保伸洋『香田遺跡』『香田遺跡』九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書2 佐賀県文

- 化財調査報告書第57集 佐賀県教育委員会 1981
- 10) 七田忠志 「佐賀県戦場ヶ谷遺跡」『史前学雑誌』 6-2・4 1934
- 11) 原田大介 『船石遺跡V』 上峰町文化財調査報告書第12集 上峰町教育委員会 1995
- 12) 原田大介 『八幡遺跡Ⅱ・塙土塙跡Ⅱ』 上峰町文化財調査報告書第14集 上峰町教育委員会 1998
前出(6)
- 13) 金闇丈夫・金闇惣・原口正三 「佐賀縣切通遺跡」『日本農耕文化の生成』 日本考古学協会 1961
- 14) 高島忠平・七田忠昭他 『二塚山遺跡』『二塚山』 佐賀県文化財調査報告書第46集 佐賀県教育委員会 1979
- 15) 七田忠昭 『一本谷遺跡』 上峰町文化財調査報告書 上峰町教育委員会 1983
- 16) 七田忠昭 『船石遺跡』 上峰町文化財調査報告書 上峰町教育委員会 1983
- 17) 鶴田治二・原田大介 『船石遺跡II 図録編』 上峰町文化財調査報告書第6集 上峰町教育委員会 1988
鶴田治二・原田大介 『船石遺跡II本文編』 上峰町文化財調査報告書第7集 上峰町教育委員会 1989
- 原田大介 『船石遺跡III』 上峰町文化財調査報告書第8集 上峰町教育委員会 1990
- 原田大介 『船石遺跡IV』 上峰町文化財調査報告書第9集 上峰町教育委員会 1991
- 18) 原田大介 『船石南遺跡I』 上峰町文化財調査報告書第21集 上峰町教育委員会 2002
- 原田大介 『船石南遺跡II』 上峰町文化財調査報告書第22集 上峰町教育委員会 2002
- 19) 原田大介 『八幡遺跡I』 上峰町文化財調査報告書第13集 上峰町教育委員会 1997
- 20) 木下巧他 『姫方原遺跡』 佐賀県文化財調査報告書第33集 佐賀県教育委員会 1979
- 21) 木下巧・七田忠昭 『五本谷遺跡』『二塚山』 佐賀県文化財調査報告書第46集 佐賀県教育委員会 1979
- 22) 石橋新次 『劍塚前方後円墳』 島栖市文化財調査報告書第22集 島栖市教育委員会 1984
- 23) 前出(2)
- 24) 松尾植作 「日達原古墳群調査報告」『佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告』 第9輯 佐賀県教育委員会 1950
- 25) 木下之治 『古代国家の形成』『佐賀県史』佐賀県 1968
- 26) 木下之治編 『姫子塚』 佐賀市教育委員会 1976
- 27) 松尾植作 『佐賀県考古大観』 祐徳博物館 1959
- 28) 前出(24)
- 29) 前出(16)
- 30) 七田忠昭・高山久美子・西田和己 『下中村遺跡』 佐賀県文化財調査報告書第54集 佐賀県教育委員会 1980
- 31) 高瀬哲郎他 『下石動遺跡』『下石動遺跡』 九州横断自動車道関係埋蔵文化財発見調査報告書(6) 佐賀県文化財調査報告書第86集 佐賀県教育委員会 1987
- 32) 松尾植作 「東脊振村辛上魔寺跡の調査」 『佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告』 第5輯 佐賀県 1936
- 33) 田平徳栄他 『雲仙寺跡』 東脊振村文化財調査報告書第4集 東脊振村教育委員会 1980
- 34) 高島忠平・坪一義 『塙土塙跡』 上峰村文化財調査報告書 上峰村教育委員会 1978
- 35) 松尾植作 『塔の魔羅寺址』 佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告』 第7輯 佐賀県 1940
- 36) 前出(12)
- 原田大介 『八幡遺跡III』 上峰町文化財調査報告書第16集 上峰町教育委員会 1999
- 37) 平成5、6年度、上峰町教育委員会調査、整理中
- 38) 米倉二郎 『中世』『上峰村史』 上峰村 1979
- 39) 原田大介 『坊所城跡』 上峰町文化財調査報告書第10集 上峰町教育委員会 1992

II. 調査の概要

1. 調査に至る経緯

上峰町教育委員会では、平成元年度より、国庫補助事業の適用を受け、埋蔵文化財保護と開発との調整を図るために開発行為に伴い町内遺跡について事前の確認調査を実施してきた。民間あるいは公共機関等が主体となって実施される町内における各種開発行為について事前に協議を行い、周知の埋蔵文化財包蔵地の内外にかかわらず、これまでに埋蔵文化財発掘調査歴がない土地については、開発面積や工法等の制約がない限り、開発主体者等に事前の確認調査の実施にむけた協力を要請している。

2. 調査の方法

確認調査の方法は、開発予定地に面積的、地形的な制約がない場合、原則として10m×3mの試掘溝により地下の遺構・遺物の有無を確認することとしている。図上で開発予定範囲全体に10mのメッシュを組み、このメッシュに10m×3mの試掘溝を一マスおきに市松模様に設定し、試掘溝の配置計画を作成している。この試掘溝配置計画をもとに現地で試掘溝を設定し、確認調査を実施している。

また、開発面積に対する試掘面積の割合は、事前に図上で試掘溝を設定する時点ではおおむね開発面積の10%を目途としているものの、実際の調査では現地の種々の制約により、試掘溝の規模、配置等は臨機応変な対応を探ることも多く、試掘面積を縮小せざるを得ない場合も少なくはない。

各試掘溝の掘削については、遺構検出面までの掘削には可能な限り重機を使用しているが、重機が使用できない場合、包含層や遺構の掘り下げなどそれ以上の精査が必要な場合は作業員の人力により掘削を行っている。

試掘の結果、遺構などが検出された試掘溝については、適宜、遺構配置等の略測を行い、縮尺1/100程度の平面図、縮尺1/20程度の土層断面図を作成し、フィルムカメラ・デジタルカメラによる写真撮影を行い記録としている。作業終了後は、原則として試掘溝は埋め戻しを行い原状への復旧を図っている。

また、確認調査の結果、開発予定地内から遺構や遺物が検出された場合で、かつ、調査原因が個人専用住宅の建設、個人による自己所有農地の改良など、遺跡の記録保存等に係る経費について、これを開発主体者に求めることが困難であると認められる場合は、本補助事業の予算の範囲内において、検出された地下の埋蔵文化財に工事の影響が及ぶ範囲について記録保存を目的とした必要最小限の本調査を実施することとしている。

上峰町全図

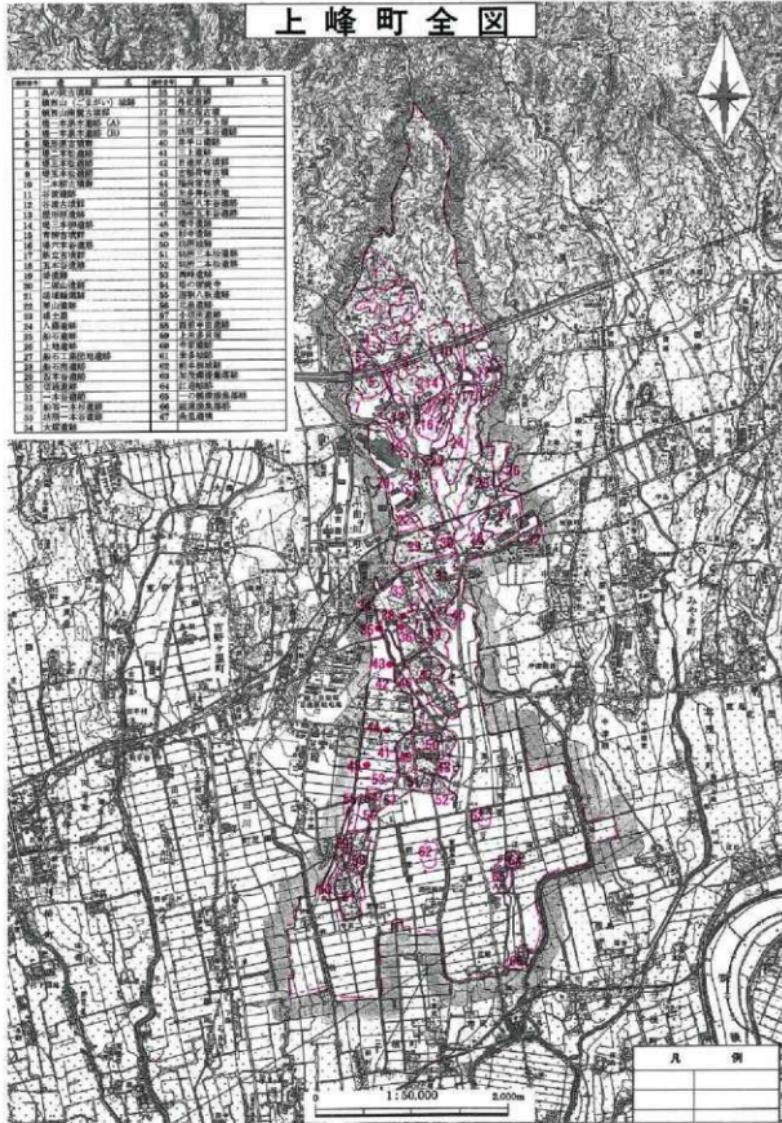


Fig. 2 上峰町遺跡地図 (1/50,000)

III. 令和元年度の確認調査

Tab.1 令和元年度 町内遺跡確認調査一覧表

No	遺跡名	所在地	原因者	事業内容	工事面積(m ²)	調査面積(m ²)	確認調査時期	確認調査結果	調査後の措置	備考
1	坊所一本谷遺跡(1)	上峰町大字坊所字二本谷 2426番17	個人	個人住宅建設工事	235	15	平成31年4月16日	土壤・ビット等及び土器片が検出された。	工事実施	検出した遺構は現状保存。
2	東山遺跡	上峰町大字堤 2106番16 2106番34の一部	ニシハラ理工株式会社	工事建設工事	8,326	210	平成31年4月18日 平成31年4月19日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施	
3	周知外上坊所地区	上峰町大字坊所字上坊所 263番1	個人	個人住宅建設工事	425	20	平成31年4月24日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施	
4	三上遺跡(1)	上峰町大字坊所字三上 3218番8	個人	個人住宅建設工事	219	12	平成31年4月25日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施	
5	坊所五本谷遺跡	上峰町大字坊所字五本谷 1839番2の一部	個人	個人住宅建設工事	353	20	令和元年5月16日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施	
6	三上遺跡(2)	上峰町大字坊所字三上 3182番1 3184番1	株式会社C&C	複数分譲住宅建設工事	1,906	190	令和元年5月24日	住居跡・土壤・ビット及び生糞土器片を検出した。	本調査終了後、 工事実施	
7	一本谷遺跡	上峰町大字坊所字一本谷 2577番68	個人	埋蔵文化財の有無の確認	156	10	令和元年6月12日	遺構・遺物は検出されなかった。	埋蔵文化財なし	
8	五本谷遺跡	上峰町大字堤字五本谷 2024番3 2024番6	ティ・エムサービス株式会社	資材置場造成工事	1,082	30	令和元年6月13日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施	
9	三上遺跡(3)	上峰町大字坊所字三上 3264番1 3267番1の一部 3268番1の一部	個人	共同住宅建設工事	1,422	120	令和元年7月5日	土壤・ビットを検出した。	工事立会	検出した遺構は現状保存。
10	三上遺跡(4)	上峰町大字坊所字三上 3267番3 3267番1の一部 3268番1の一部	鉄江口建設	共同住宅建設工事	1,389	120	令和元年7月8日	変状遺構・土壤・ビットを検出した。	工事立会	検出した遺構は現状保存。
11	周知外中村地区	上峰町大字江迎字中村 1409番7	佐賀県農業協同組合	農機修理工場建設工事	7,284	110	令和元年7月26日 令和元年7月29日 令和元年7月30日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施	
12	三上遺跡(5)	上峰町大字坊所字三上 3149番3	個人	個人住宅建設工事	311	20	令和元年8月20日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施	
13	裡寺遺跡	上峰町大字坊所字裡寺 7695番1の一部	個人	個人住宅建設工事	340	20	令和元年9月5日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施	
14	移寺遺跡(1)	上峰町大字坊所字西峰 2782番	さかえの土地開発㈱	分譲宅地造成工事	981	28	令和元年10月4日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施	
15	坊所三本松遺跡	上峰町大字坊所字三本松 882番1 882番4	鉄アーネストワツ	複数分譲住宅建設工事	896	48	令和元年10月8日	近世の遺構・遺物が検出された。	工事実施	
16	米多城跡(1)	上峰町大字前牟田字蛇井崎 647番2 647番8	鉄MACアーキテクツ	個人住宅建設工事	427	20	令和元年10月25日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施	
17	三上遺跡(6)	上峰町大字坊所字西峰 2777番1	個人	集合住宅建設工事	965	90	令和元年11月7日	津状遺構・土壤・ビット及び土師片・須恵器片を検出した。	設計変更、工事実施	検出した遺構は現状保存。

No	遺跡名	所在地	原因者	事業内容	工事面積(m ²)	調査面積(m ²)	確認調査時期	確認調査結果	調査後の措置	備考
18	杉寺遺跡(2)	上峰町大字坊所字杉寺 1363番 1364番1 1364番2	㈱CTW	建売分譲住宅建設工事	1,458	70	令和元年12月19日	漢状遺構・土壙・ピット及び土師器片を検出した。	工事立会	
19	杉寺遺跡(3)	上峰町大字坊所字杉寺 1365番 1366番	㈱CTW	建売分譲住宅建設工事	1,069	40	令和元年12月19日	住居跡・漢状遺構・土壙及び土師器片・灰陶器片を検出した。	工事立会	
20	三上遺跡(7)	上峰町大字坊所字三上 3155番1	㈱トップエスティート	分譲宅地造成工事	2,893	100	令和元年12月24日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施	
21	米多城跡(2)	上峰町大字南牟田字一本桜 1306番1	個人	個人住宅建設工事	248	20	令和元年12月25日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施	
22	坊所二本谷遺跡	上峰町大字坊所字二本谷 2495番74	個人	埋蔵文化財の有無の確認	1,048	50	令和2年2月13日	遺構・遺物は検出されなかった。	埋蔵文化財なし	
23	坊所一本谷遺跡(2)	上峰町大字坊所字七本谷 1550番3 1550番4 1550番36	上峰町	埋蔵文化財の有無の確認	24,895	758	令和2年3月2日 令和2年3月3日 令和2年3月4日 令和2年3月5日 令和2年3月6日 令和2年3月9日 令和2年3月10日 令和2年3月11日 令和2年3月12日	遺構・遺物は検出されなかった。	埋蔵文化財なし	
24	四本谷遺跡	上峰町大字堤字西本谷 1903番210	個人	個人住宅建設工事	311	20	令和2年3月24日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施予定	
合 計					58,639	2,131				

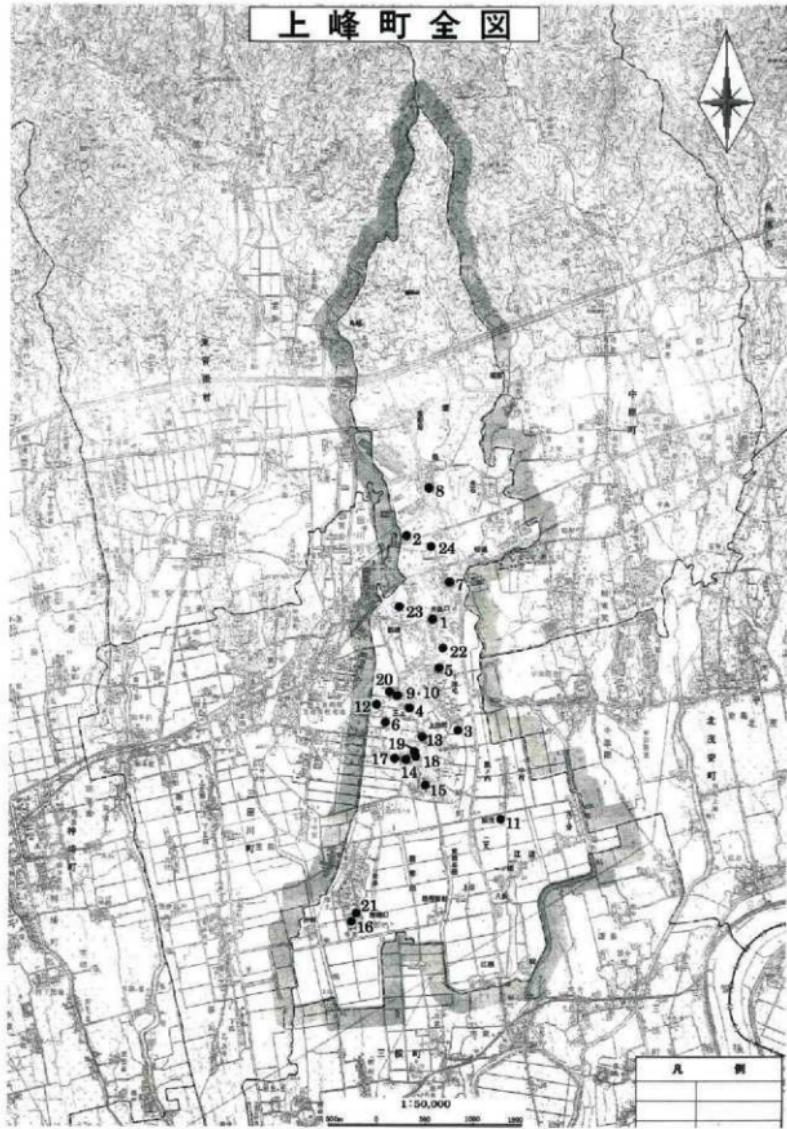


Fig. 3 令和元年度 確認調査地位置図 (1/50,000)

R O 1 - 1

遺跡名：坊所一本谷遺跡(1)

調査地：上峰町大字坊所字二本谷2426番17

工事内容：個人住宅建設工事

工事面積：235m²

調査面積：15m²

調査時期：平成31年4月16日

立地と環境： 坊所一本谷遺跡は、吉野ヶ里町目達原

付近井手口住宅地区付近へ延びる井手口

西丘陵の北西部、標高 16～26m 付近に

広がる弥生時代の集落遺跡である。

調査対象区域は、この井手口西丘陵の

北部、標高 18m 付近に位置しており、こ

れまで宅地として利用されていた。

遺構と遺物：No.1試掘溝において、土壌・ピット等及び
土師器片を検出した。

調査後措置：工事実施。検出した遺構は現状保存。



Fig. 4 坊所一本谷遺跡(1) (1/5,000)



Fig. 5 トレンチ設定図 (1/1,000)

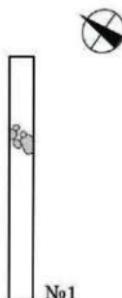
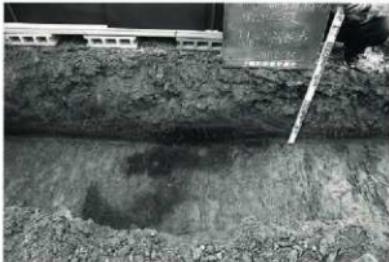


Fig. 6 トレンチ略図 (1/200)



PL. 1 No.1試掘溝（東から）



PL. 2 No.1試掘溝遺構検出状況

R01-2

遺跡名：栗山遺跡

調査地：上峰町大字堤2100番16、2100番34の一部

工事内容：工場建設工事

工事面積：8,326m²

調査面積：210m²

調査時期：平成31年4月18日、19日

立地と環境： 栗山遺跡は、本町北部の大字堤地区か

ら吉野ヶ里町にまたがる二塚山丘陵の南
西部の一画を占める古墳時代の墳墓遺跡
である。

調査対象区域は、この二塚山丘陵の南
西部、標高30m付近に位置しており、か
つては工場の浄水施設が設置されていた
が、現在はこの施設は取り壊され、更地
となっていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



Fig. 7 栗山遺跡 (1/5,000)



PL. 3 調査地全景

R01-3

遺跡名：周知外上坊所地区

調査地：上峰町大字坊所字上坊所263番地1

工事内容：個人住宅建設工事

工事面積：425m²

調査面積：20m²

調査時期：平成31年4月24日

立地と環境： 調査対象区域は、町中南部、郡境地区

の外記溜池北側付近を谷頭とし、下津毛
丘陵と坊所丘陵を分かつ浸食谷の谷口部、
標高7m付近に位置しており、これまで
畑（地目は田）として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



Fig. 8 周知外上坊所地区 (1/5,000)



PL. 4 調査地全景

R O 1 - 4

遺跡名：三上遺跡(1)

調査地：上峰町大字坊所字三上3218番8

工事内容：個人住宅建設工事

工事面積：219m²

調査面積：12m²

調査時期：平成31年4月25日

立地と環境： 三上遺跡は、吉野ヶ里町目達原付近から本町米多集落付近へ延びる目達原丘陵の中央部、標高約 8~16m 付近に広がる绳文時代から奈良・平安時代に及ぶ集落遺跡である。

調査対象区域は目達原丘陵の中東部、標高 15m 付近に位置しており、これまで宅地として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



Fig. 9 三上遺跡(1) (1/5,000)



PL. 5 Na1試掘溝断面

R O 1 - 5

遺跡名：坊所五本谷遺跡

調査地：上峰町大字坊所字五本谷1839番2の一部

工事内容：個人住宅建設工事

工事面積：353m²

調査面積：20m²

調査時期：令和元年5月16日

立地と環境： 坊所五本谷遺跡は、本町郡境集落付近から下津毛集落付近へ延びる下津毛丘陵の南部、標高約 7~16m 付近に広がる弥生・古墳時代の集落および墳墓遺跡である。

調査対象区域はこの下津毛丘陵の中部、標高 16m 付近に位置しており、これまで畑地として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



Fig. 10 坊所五本谷遺跡 (1/5,000)



PL. 6 Na1試掘溝（南から）

R O 1 - 6

遺跡名：三上遺跡(2)

調査地：上峰町大字坊所字三上3183番1、3184番1

工事内容：捷充分譲住宅建設工事

工事面積：1,906m²

調査面積：180m²

調査時期：令和元年5月24日

立地と環境： 三上遺跡は、吉野ヶ里町目達原付近か

ら本町米多集落付近へ延びる目達原丘陵
の中央部、標高約8~16m付近に広がる
調文時代から奈良・平安時代に及ぶ集落
遺跡である。

調査対象区域は目達原丘陵の中央部、
標高15m付近に位置しており、これまで
遊休地であった。

遺構と遺物：No.1~No.4試掘溝で住居跡・土壤・ピット
及び弥生土器片を検出した。

調査後措置：本調査終了後、工事実施。

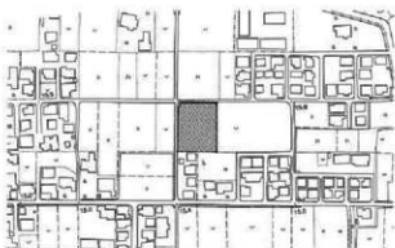


Fig. 11 三上遺跡(2) (1/5,000)

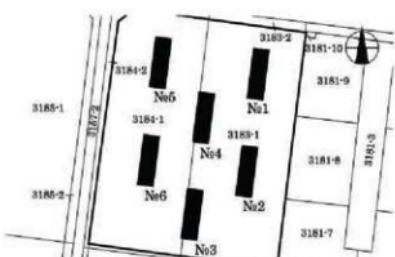


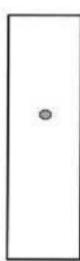
Fig. 12 トレンチ設定図 (1/1,000)



No1



No2



No3



No4



Fig. 13 トレンチ略図 (1/200)



PL. 7 調査地全景



PL. 8 №1試掘溝 (北から)



PL. 9 №1試掘溝造構検出状況



PL. 10 №2試掘溝 (北から)



PL. 11 №3試掘溝 (南から)



PL. 12 №4試掘溝 (南から)



PL. 13 №4試掘溝造構検出状況



PL. 14 №4試掘溝断面

R O I - 7

遺跡名：一本谷遺跡

調査地：上峰町大字坊所字一本谷2577番68

工事内容：埋蔵文化財の有無の確認

工事面積：156m²

調査面積：10m²

調査時期：令和元年6月12日

立地と環境：一本谷遺跡は、上峰町北部二塚山丘陵

から国道34号線以南の井手口地区へ延びる井手口東丘陵の標高12～26m付近に広がる縄文時代から古墳時代に及ぶ集落、墳墓からなる複合遺跡である。

調査対象区域は、この井手口東丘陵の中央部東斜面、標高18m付近に位置しており、かつて住宅が建設されていたが取り壊され空地となっていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：埋蔵文化財なし



Fig. 14 一本谷遺跡 (1/5,000)



PL. 15 調査地全景

R O I - 8

遺跡名：五本谷遺跡

調査地：上峰町大字堤字五本谷2024番3、2024番6

工事内容：資材置場造成工事

工事面積：1,082m²

調査面積：30m²

調査時期：令和元年6月13日

立地と環境：五本谷遺跡は、上峰町北部大字堤字四

本谷、五本谷に所在する二塚山丘陵上に位置する弥生時代から古墳時代、奈良時代に及ぶ墳墓遺跡である。

調査対象区域はこの二塚山丘陵の東辺据部、標高19m付近に位置しており、これまで水田として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



Fig. 15 五本谷遺跡 (1/5,000)



PL. 16 調査地全景

R O 1 - 9

遺跡名：三上遺跡(3)

調査地：上峰町大字坊所字三上 3264 番 1、

3267 番 1 の一部、3265 番 1 の一部

工事内容：共同住宅建設工事

工事面積：1,422m²

調査面積：120m²

調査時期：令和元年7月5日

立地と環境： 三上遺跡は、吉野ヶ里町目連原付近から本町米多集落付近へ延びる目連原丘陵の中央部、標高約 8~16m 付近に広がる
绳文時代から奈良・平安時代に及ぶ集落遺跡である。

調査対象区域は目連原丘陵の中央部、
標高 16m 付近に位置しており、これまで
畠地として利用されていた。

遺構と遺物：No.2、No.4 試掘溝において土壌・ピットを
検出した。遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事立会。検出した遺構は現状保存。



Fig. 16 三上遺跡(3) (1/5,000)

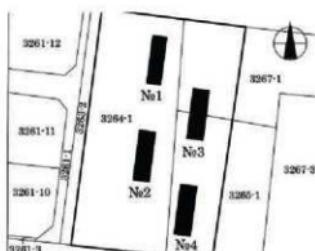


Fig. 17 トレンチ設定図 (1/1,000)

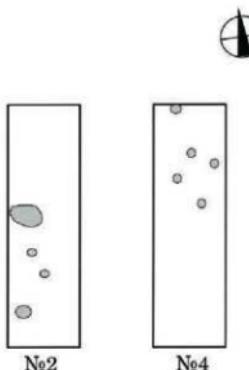


Fig. 18 トレンチ略図 (1/200)



PL.17 No.2試掘溝（北から）



PL.18 No.4試掘溝遺構検出状況

R01-10

遺跡名：三上遺跡(4)

調査地：上峰町大字坊所字三上3267番3、

3267番1の一部、3265番1の一部

工事内容：共同住宅建設工事

工事面積：1,389m²

調査面積：120m²

調査時期：令和元年7月8日

立地と環境： 三上遺跡は、吉野ヶ里町目達原付近か

ら本町米多集落付近へ延びる目達原丘陵
の中央部、標高約8~16m付近に広がる
绳文時代から奈良・平安時代に及ぶ集落
遺跡である。

調査対象区域は目達原丘陵の中央部、
標高16m付近に位置しており、これまで
畑地として利用されていた。

遺構と遺物：構造遺構・土墳・ピットを検出した。遺
物は検出されなかった。

調査後措置：工事立会。検出した遺構は現状保存。

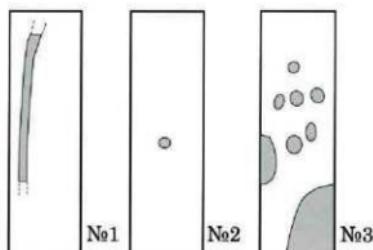


Fig. 21 トレンチ略図 (1/200)



Fig. 19 三上遺跡(4) (1/5,000)

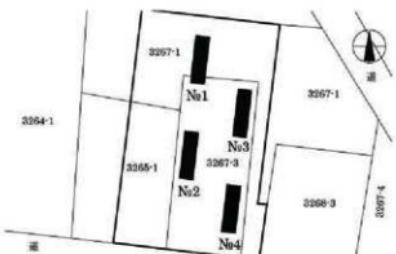


Fig. 20 トレンチ設定図 (1/1,000)



PL.19 No.1試掘溝 (北から)



PL.20 No.3試掘溝遺構検出状況

R01-11

遺跡名：周知外中村地区

調査地：上峰町大字江迎字中村1409番7

工事内容：農機修理工場建設工事

工事面積：7,284m²

調査面積：110m²

調査時期：令和元年7月26日、29日、30日

立地と環境： 調査対象区域は町南部、加茂塚濠集落

跡の東200m付近の中村地区に位置する。

標高は約5mで、これまでJAの米乾燥施設が所在していた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



Fig. 22 周知外中村地区 (1/5,000)



PL.21 調査地全景

R01-12

遺跡名：三上遺跡(5)

調査地：上峰町大字坊所字三上3149番3

工事内容：個人住宅建設工事

工事面積：311m²

調査面積：20m²

調査時期：令和元年8月20日

立地と環境： 三上遺跡は、吉野ヶ里町目達原付近から本町米多集落付近へ延びる目達原丘陵の中央部、標高約8~16m付近に広がる
绳文時代から奈良・平安時代に及ぶ集落遺跡である。

調査対象区域は目達原丘陵の中東部、標高15m付近に位置しており、これまで宅地として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



Fig. 23 三上遺跡(5) (1/5,000)



PL.22 調査地全景

R01-13

遺跡名：樺寺遺跡

調査地：上峰町大字坊所字樺寺795番の一部

工事内容：個人住宅建設工事

工事面積：340m²

調査面積：20m²

調査時期：令和元年9月5日

立地と環境： 樺寺遺跡は、上峰町大字坊所字樺寺一

帶を占有する弥生時代から中世に及ぶ集
落遺跡で、吉野ヶ里町目達原付近から本
町坊所地区へ延びる坊所丘陵の中央部、
標高約 9～11m 付近に位置している。

調査対象区域は目達原丘陵の中東部、
標高10m付近に位置しており、これまで
宅地として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



Fig. 24 樺寺遺跡 (1/5,000)



PL. 23 調査地全景

R01-14

遺跡名：杉寺遺跡(I)

調査地：上峰町大字坊所字西峰2782番

工事内容：分譲宅地造成工事

工事面積：981m²

調査面積：28m²

調査時期：令和元年10月4日

立地と環境： 杉寺遺跡は、本町大字坊所字杉寺に所
在する弥生時代から中世に及ぶ集落遺跡
である。

調査対象地は、目達原丘陵から本町坊
所地区へ派生する坊所丘陵の、標高 10m
付近に位置しており、これまで空き地と
なっていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



Fig. 25 杉寺遺跡(I) (1/5,000)



PL. 24 調査地全景

R01-15

遺跡名：坊所三本松遺跡

調査地：上峰町大字坊所字三本松882番1、882番4

工事内容：建充分譲住宅建設工事

工事面積：896m²

調査面積：48m²

調査時期：令和元年10月8日

立地と環境：坊所三本松遺跡は、町中南部の上峰町大字坊所字三本松・西峰に所在し、現下坊所集落が立地する坊所丘陵南部および西方の目達原丘陵東辺部に位置する弥生時代から中世に及ぶ集落遺跡である。

調査対象区域は坊所丘陵の中央部、標高9m付近に位置しており、これまで宅地として利用されていた。

遺構と遺物：近世の遺構・遺物が検出された。

調査後措置：工事実施



Fig. 26 坊所三本松遺跡 (1/5,000)



PL. 25 調査地全景



Fig. 27 米多城跡(1) (1/5,000)



PL. 26 調査地全景

R01-16

遺跡名：米多城跡(1)

調査地：上峰町大字前半田字姥井鶴647番2、647番5

工事内容：個人住宅建設工事

工事面積：427m²

調査面積：20m²

調査時期：令和元年10月25日

立地と環境：米多城跡は、吉野ヶ里町目達原付近から本町米多集落付近へ延びる目達原丘陵南端が沖積地に没する下米多・寺家一・寺家二集落一帯の標高約4m付近に所在する中世の城館跡である。

調査対象区域は現寺家一集落内の沖積地標高4m付近に位置しており、宅地として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施

R01-17

遺跡名：三上遺跡(6)

調査地：上峰町大字坊所字西峰2777番1

工事内容：集合住宅建設工事

工事面積：965m²

調査面積：90m²

調査時期：令和元年11月7日

立地と環境： 三上遺跡は、吉野ヶ里町目達原付近から本町米多集落付近へ延びる目達原丘陵の中央部、標高約8～16m付近に広がる
縄文時代から奈良・平安時代に及ぶ集落遺跡である。

調査対象区域は目達原丘陵の中央部、
標高10m付近に位置しており、これまで
畠地として利用されていた。

遺構と遺物：溝状遺構・土壙・ピットが検出された。

須恵器片・土師器片が少量出土した。

調査後措置：設計変更後、工事実施。検出した遺構は

現状保存。

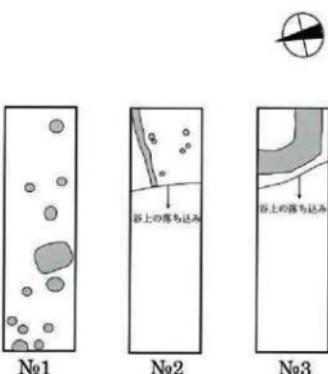


Fig. 30 トレンチ略図 (1/200)



Fig. 28 三上遺跡(6) (1/5,000)

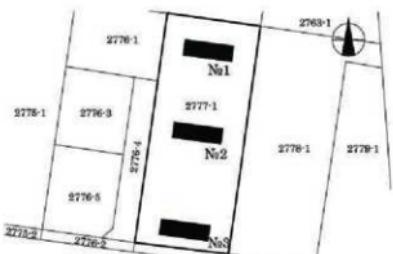


Fig. 29 トレンチ設定図 (1/1,000)



PL. 27 調査地全景



PL. 28 N°1試掘溝 (東から)

R01-18

遺跡名：杉寺遺跡(2)

調査地：上峰町大字坊所字杉寺1363番、1364番1、
1364番2

工事内容：建充分譲住宅建設工事

工事面積：1,458m²

調査面積：70m²

調査時期：令和元年12月19日

立地と環境： 杉寺遺跡は、本町大字坊所字杉寺に所在する弥生時代から中世に及ぶ集落遺跡である。

調査対象地は、目達原丘陵から本町坊所地区へ派生する坊所丘陵の、標高10m付近に位置しており、これまで畠地となっていた。

遺構と遺物：溝状遺構・土壙・ピットを検出した。土師器片を検出した。

調査後措置：工事立会



Fig. 31 杉寺遺跡(2) (1/5,000)

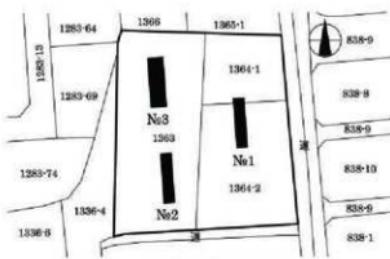


Fig. 32 トレンチ設定図 (1/1,000)

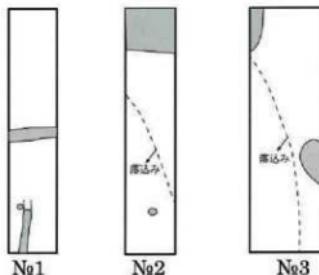


Fig. 33 トレンチ略図 (1/200)



PL. 29 調査地全景



PL. 30 No.2試掘溝（北から）

R01-19

遺跡名：杉寺遺跡(3)

調査地：上峰町大字坊所字杉寺1365番1、1366番

工事内容：建充充分譲住宅建設工事

工事面積：1,069m²

調査面積：40m²

調査時期：令和元年12月19日

立地と環境： 杉寺遺跡は、本町大字坊所字杉寺に所

在する弥生時代から中世に及ぶ集落遺跡
である。

調査対象地は、目達原丘陵から本町坊
所地区へ派生する坊所丘陵の、標高10m
付近に位置しており、これまで畠地とな
っていた。

遺構と遺物：住居跡・溝状遺構・土壤を検出した。土
師器片・須恵器片を検出した。

調査後措置：工事立会



Fig. 34 杉寺遺跡(3) (1/5,000)

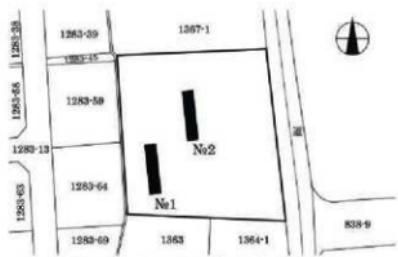


Fig. 35 トレンチ設定図 (1/1,000)

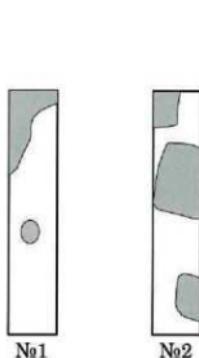


Fig. 36 トレンチ略図 (1/200)



PL. 31 調査地全景



PL. 32 №2試掘溝遺構検出状況

R O 1 - 2 0

遺跡名：三上遺跡(7)

調査地：上峰町大字坊所字三上3155番1

工事内容：分譲宅地造成工事

工事面積：2,893m²

調査面積：100m²

調査時期：令和元年12月24日

立地と環境： 三上遺跡は、吉野ヶ里町目達原付近か

ら本町米多集落付近へ延びる日達原丘陵の中央部、標高約8～16m付近に広がる
绳文時代から奈良・平安時代に及ぶ集落遺跡である。

調査対象区域は日達原丘陵の中央部、
標高15m付近に位置しており、これまで
畠地として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



Fig. 37 三上遺跡(7) (1/5,000)



PL. 33 調査地全景

R O 1 - 2 1

遺跡名：米多城跡(2)

調査地：上峰町大字前牟田字一本桜1300番1

工事内容：個人住宅建設工事

工事面積：248m²

調査面積：20m²

調査時期：令和元年12月25日

立地と環境： 米多城跡は、吉野ヶ里町目達原付近か

ら本町米多集落付近へ延びる日達原丘陵
南端が沖積地に没する下米多・寺家一・
寺家二集落一帯の標高約4m付近に所在
する中世の城館跡である。

調査対象区域は現寺家一集落内の沖積
地標高4m付近に位置しており、宅地と
して利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



Fig. 38 米多城跡(2) (1/5,000)



PL. 34 調査地全景

R 01-22

遺跡名：坊所二本谷遺跡

調査地：上峰町大字坊所字二本谷2495番74

工事内容：埋蔵文化財の有無の確認

工事面積：1,048m²

調査面積：50m²

調査時期：令和2年2月13日

立地と環境：坊所二本谷遺跡は、本町堤地区付近から

井手口住宅地区付近へ延びる井手口西丘陵の南部、標高12~24m付近に広がる弥生時代の集落遺跡である。

調査対象区域は、この井手口西丘陵の東辺部、標高17m付近に位置しており、更地となっていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：埋蔵文化財なし



Fig. 39 坊所二本谷遺跡 (1/5,000)



PL. 35 調査地全景

R 01-23

遺跡名：坊所一本谷遺跡(2)

調査地：上峰町大字坊所字七本谷1550番3、

1550番4、1550番36

工事内容：埋蔵文化財の有無の確認

工事面積：24,895m²

調査面積：758m²

調査時期：令和2年3月2日、3日、4日、5日、6日、9日

10日、11日、12日

立地と環境：坊所一本谷遺跡は、吉野ヶ里町目達原付近井手口住宅地区付近へ延びる井手口西丘陵の北西部、標高16~26m付近に広がる弥生時代の集落遺跡である。

調査対象区域は、この井手口西丘陵の北部、標高23m付近に位置しており、これまで自動車学校跡地であった。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：埋蔵文化財なし



Fig. 40 坊所一本谷遺跡(2) (1/5,000)



PL. 36 調査地全景

R 0 1 - 2 4

遺跡名：四本谷遺跡

調査地：上峰町大字堤字四本谷1903番210

工事内容：個人住宅建設工事

工事面積：311m²

調査面積：20m²

調査時期：令和2年3月24日

立地と環境： 四本谷遺跡は、木町中北部、現切通集

落西方に立地する二塚山丘陵の南部、標高 20~38m 付近に位置する弥生時代の墳墓遺跡である。

調査対象区域は二塚山丘陵の南部、標高 24m 付近に位置しており、畠地として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



Fig. 41 四本谷遺跡 (1/5,000)



PL. 37 調査地全景

報告書抄録

ふりがな	かみみねちょうないいせきかくにんちょうさ XII							
書名	上峰町内遺跡確認調査 XII							
副書名	上峰町内における開発行為に伴う埋蔵文化財確認調査報告書 一令和元年度一							
巻次								
シリーズ名	上峰町文化財調査報告書							
シリーズ番号	第50集							
編著者名	原田 大介・伊達 有彩・松浦 智							
編集機関	上峰町教育委員会							
所在地	佐賀県三養基郡上峰町坊所319-4 上峰町民センター内 Tel 0952-52-3833/Fax 0952-52-3888							
発行年月日	2021年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積m ²	調査原因
町内遺跡	佐賀県三養基郡 上峰町一円	市町村	遺跡番号	° ′ ″	° ′ ″	2019.4. ~ 2020.3		町内における各種開発行為
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
町内遺跡	集落跡 城館跡	弥生 古墳 奈良・平安 中世 近世	住居跡・溝状遺構、 土壙・ピット等	弥生土器・須恵器・土師器、 近世陶磁器等				

上峰町文化財調査報告書第50集

上峰町内遺跡確認調査 XII

見開環境文化
文化力
POWER OF
CULTURE

令和3年 3月31日 発行

編集
発行 上峰町教育委員会

佐賀県三養基郡上峰町坊所319-4

印刷 大同印刷株式会社

佐賀県佐賀市久保泉町上和泉1848-20

